

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
<p>1 実践1 【いじめ撲滅宣言】</p>	<p>生徒会を中心に「いじめ撲滅委員会」を立ち上げた。各学級の学級委員で構成されるいじめ撲滅委員が中心となって、各学級で話し合いをもち、学級ごとに「いじめ撲滅スローガン」を作成した。各学級作成したスローガンは、5月の生徒総会で全校生徒に向けて発表し、生徒総会終了後に学級に掲示した。</p> <p>11月の黒潮祭（文化祭）では、各学級で考えたスローガンを全校生徒と保護者の前で改めて発表し、学級ごとにこれまでの振り返りと今後のいじめ撲滅への決意表明を行った。</p> <p>成果</p> <p>いじめ撲滅スローガンを全学級、学校全体で考えたことで、絶対にいじめを許さないという強い決意を全校で共有できた。</p>  <p>課題</p> <p>いじめ撲滅のために学級や学年、学校全体で新たに取り組めることについて、いじめ撲滅プロジェクトの次の段階として模索していきたい。</p> 
<p>2 実践2 【第二次世界大戦の始まり（ユダヤ人への差別）】 （第3学年社会科学）</p>	<p>第二次世界大戦におけるドイツの占領政策について、反抗する者を弾圧したり、物資を力づくで取り上げたり、占領地の住民を本国に強制的に連れていき、工場などで厳しい仕事に従事させたりしたことをおさえた。教科書掲載資料の「アンネの日記」や「命のビザ」を基に、占領政策においてユダヤ人が差別され、アウシュビッツなど各地の強制収容所に送られて労働させられ、多くの命が失われたことへの理解を深めた。</p> <p>成果</p> <p>人類が引き起こした民族差別に対する理解を深めた。「命のビザ」を通して、差別され迫害されるユダヤ人を助けるために、杉原千畝やシンドラなど人道的な行為を選択した勇敢な人物が多数いたことを知り、人権尊重を貫く意思の尊さや大切さを再確認することができた。</p> <p>課題</p> <p>人権について詳しく学習するのは7月以降に学習する公民の分野であることから、5月のこの時点では未履修であることを踏まえて、ユダヤ人に対する民族差別を分かりやすく教材化する必要がある。ヨーロッパなど国外における出来事だと身近ではないものとして受け止める生徒がいるので、より自分事として実感できるように年齢に近いアンネ・フランクの書いた日記の詳細を追加の資料として準備したい。</p>